

夏の贈答・接待用食料への支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

7月及び8月はお中元やお盆の帰省などで、贈答用の食料品を購入される機会も多いのではないのでしょうか。そこで、今月は夏の贈答・接待用食料への支出について家計調査結果からみてみましょう。

贈答・接待用食料への支出が多い7月及び8月

1世帯当たりの交際費^注への支出金額を月別にみると、1月及び3月は他の月に比べ贈与金が多く、7月及び8月は12月に比べ少ないものの、贈答・接待用食料への支出が多くなっています（図1）。

注）贈答用品及び接待用支出並びに職場、地域などにおける諸会費及び負担費。

図1 交際費の月別支出金額（平成20年）

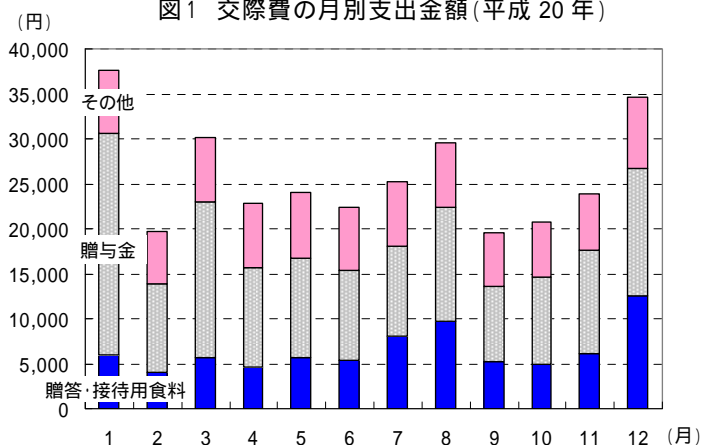


表 贈答・接待用食料の内訳の支出割合（平成20年）

	7, 8月 (%)	年平均 (%)	/
贈答・接待用食料	100.0	100.0	1.00
穀類	5.7	4.6	1.24
魚介類	6.0	7.6	0.79
肉類	3.0	3.5	0.86
乳卵類	0.3	0.4	0.75
野菜・海藻	3.5	4.0	0.88
果物	11.3	8.1	1.40
油脂・調味料	3.1	2.3	1.35
菓子類	21.2	24.0	0.88
調理食品	3.9	4.5	0.87
飲料	4.5	3.7	1.22
酒類	8.2	6.0	1.37
外食	29.3	31.3	0.94

7月及び8月に増える贈答用の果物及び酒類への支出

次に、7月及び8月の贈答・接待用食料への支出の内訳をみると、外食の割合が最も高く、次いで菓子類となっています。ただし、7月及び8月に特に支出が増えるものを、それぞれの内訳の割合が年平均の割合の何倍になっているかという指標でみると、果物が最も高く（1.40倍）、次いで酒類（1.37倍）、油脂・調味料（1.35倍）となっています（表）。

7月及び8月に贈答・接待用食料への支出を増やす60～69歳及び70歳以上の世帯

最後に、消費支出全体に占める贈答・接待用食料への支出の割合を世帯主の年齢階級別にみると、年平均と7月及び8月共に70歳以上の世帯が最も高く、次いで60～69歳の世帯となっています。また、年平均と7月及び8月を比較すると、29歳以下の世帯では年平均とほとんど変わらない（+0.1ポイント）のに対して、60～69歳及び70歳以上の世帯では、この時期の支出を増やしている（共に+1.2ポイント）ことがわかります（図2）。

図2 世帯主の年齢階級別の消費支出に占める贈答・接待用食料への支出割合（平成20年）

